

江陵4年連続4強

春高バレー道予選

【江別】「春高バレー」の第70回全日本高校選手権大会道代表決定戦（道バレーボール協会など主催）は第3日の17日、道立野幌総合運動公園総合体育館などで3回戦と準々決勝を行い、女子の江陵（道協会推薦3位）は3回戦で虻田（室蘭1位）、準々決勝で函館西（函館同）を共に2-0で下した。江陵は4年連続の4強入りを果たし、最終日18日午後の準決勝で昨年の覇者・札幌大谷（道協会推薦2位）と初の全国出場を懸けて対戦した。

第3日のこのほかの十勝勢は、女子の帯南商（帯広1位）が3回戦で武修館（釧路1位）に2-0で勝利したが準々決勝で道大谷室蘭（道協会推薦4位）に1-2で惜敗。帯大谷（帯広2位）は3回戦で道遺愛女子（函館2位）を2-0で制した。準々決勝で旭川実（旭川1位）にストレートで敗れた、男子の3回戦は帯三条（帯広1位）が道科学大（道協会推薦2位、札幌）に、白樺学園（帯広2位）が東海大札幌（道協会推薦1位）に共に0-2で敗れた。（有岡志信）

「新しい時代を築く」 平栗主将

準々決勝で勝利を取めた江陵は、1セットも落とすことなく、私たちの代で新しい時代を築く。全国に行って江陵のさわやかなチームの特徴は特別な思いを込めた初の名を残したい」と平栗弥々主将（3年）。道教委は9月に速いコンビバレーで、函館西ある。公立高校配置計画で、道立の幕別と私立の江陵の事実上の



【女子準々決勝・江陵―函館西】連続得点を決めて喜ぶ江陵の④平栗弥々主将

粘りのバレーで準決勝臨む

統合を決定、2019年4月の入学者から「統合校」になる。だからこそ、母校の名前を全国でしっかりと刻むことは選手全員の思いだ。江陵は14年度から3年連続で4強止まりだ。全国の出場権を獲得できる決勝進出にあと一步のところで涙をのんでいる12年度と前回にも、準決勝で札幌大谷に敗北。今回は「二度目の正直」で、平栗主将は「札幌大谷に勝つことを目標にやってきた」と前回の自身の無念、先輩たちの思いを込めて決戦の舞台に立つ。「雑草魂」「レシーブ命」「練習はうそをつかない」というのが、現チームの標語。福田まこと監督は「問題は集中力。うちのはたき上げの小さなチームだが、選手の全国へ向けた意識はいつも以上」と話す。今回こそ、3位という「指定席」を返上する決意で「最終日の準決勝に挑んだ。」